

本間一夫文化賞・武久さん

全盲奏者「いい音」追求

視覚障害者の文化や福祉の向上に貢献した個人・団体に贈る「本間一夫文化賞」の第20回受賞者に、杉並区在住で、全盲の鍵盤楽器奏者武久源造さん(66)が選ばれた。楽曲の点訳のほか、楽器の調整や部品の製作を自ら手作業で行うといった独自の音楽活動が評価された。武久さんは「これから音楽家として、いい音をたくさんの人に聴いてもらいたい」と話す。

松山市出身の武久さんは、全盲の両親の間に生まれ、1歳の時に病気で両目を失明した。父親が盲学校で音楽教師をしていた影響で、物心がつく前から音楽が身近にある環境で育った。

東京芸大大学院音楽研究科修了後は、プロ演奏家の道へ進み、チェンバロ、オルガン、

受樂作は、武久さんの調整や部品製作は、日課で、工具がいろいろある。



ピアノなど多彩な楽器を使い、中世から現代までの幅広い曲を演奏する。これまで

に40作品以上のCDを発売し、コンサートの開催は国内外で1500回を超えて

点字楽譜、部品製作 手作業で

本間一夫文化賞 日 本点字図書館(新宿区)を1940年に創立した本間一夫氏を記念し、読売光と愛の事業団などの協力で、2004年に設けられた。

いる。

武久さんが新しい楽曲に取り組む際は、点字楽譜が必要となる。ただ、古い時代の曲は点訳されていないものがほとんど。そんな時、武久さんは知人に頼んで演奏してもらい、自ら点字楽譜を作る。この方法で1万曲以上の曲を点訳し、演奏してきた。

よりよい音を追求するうちに、楽器の調整や部品の製作も専門の技術者に頼らず、自分で行うようになっていった。ボール盤や糸のこ、ドリルといった工具の扱いはお手の物で、ピアノの弦をたたくハンマーやチェンバロのジャックなど数単位の詳細な部品を作り、弦の張り

直しもある。「好きだからやれること」と笑いながら、「盲人でも大体のことはできると、理解が進んでほしい」と望む。

「障害者」という枠にはめられることを拒否して生きてきた。視覚障害者のためだけに思っただけの仕事でもない、多くの人のいい音を届けたいという意欲には偽りがなく、「夢は『もっとうまく聞きたい』というだけ。楽器が本来持っていた音は何だったのか、探し続けたい」と力を込めた。

◇ 武久さんと、ピオラ・ダ・ガンバ奏者の市瀬礼子さんが共演するコンサートが12月7日午後7時から、渋谷区のコンサートホール「ムジカ・ザ・サト」で行われる。「チケットぴあ」で予約を受け付け中で、問い合わせはメール(concert.st@gmail.com)へ。

本間一夫文化賞・武久さん

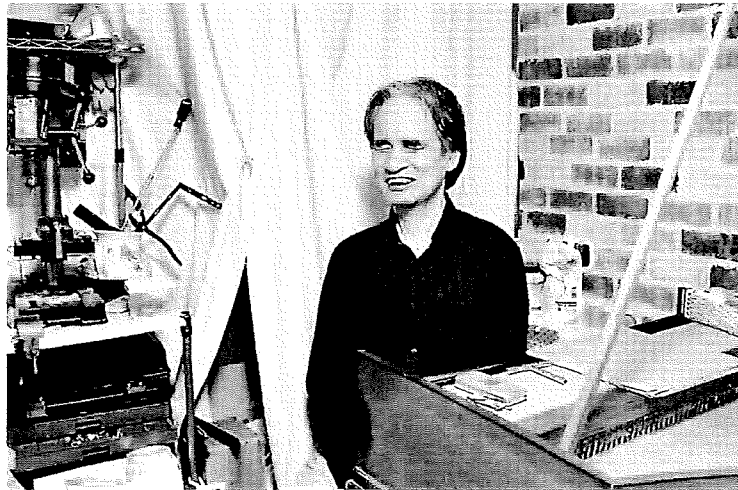
全盲奏者「いい音」追求

視覚障害者の文化や福祉の向上に貢献した個人・団体に贈る「本間一夫文化賞」の第20回受賞者に、杉並区在住で、全盲の鍵盤楽器奏者武久源造さん(66)が選ばれた。楽曲の点訳のほか、楽器の調整や部品の製作を自ら手作業で行うといった独自の音楽活動が評価された。武久さんは「これからも音楽家として、いい音をたくさんの人に聴いてもらいたい」と話す。

松山市出身の武久さんは、全盲の両親の間に生まれ、1歳の時に病気で両目を失明した。父親が盲学校で音楽教師をしていた影響で、物心がつく前から音楽が身近にある環境で育った。

東京芸大大学院音楽研究科修了後は、プロ演奏家の道へ進み、チェンバロ、オルガン、

受賞した武久さん。製作は楽器の調整や部品製作、点訳の作業など、手作業で行う。本間一夫文化賞を授けられた。



ピアノなど多彩な楽器を使い、中世から現代までの幅広い曲を演奏する。これまでに

40作品以上のCDを発売し、コンサートの開催は国内外で1500回を超えている。

点字楽譜、部品製作 手作業で

本間一夫文化賞 日本点字図書館(新宿区)を1940年に創立した本間一夫氏を記念し、読売光と愛の事業団などの協力で、2004年に設けられた。

武久さんが新しい楽曲に取り組む際は、点字楽譜が必要となる。ただ、古い時代の曲は点訳されていないものがほとんど。そんな時、武久さんは知人に頼んで演奏してもらい、自ら点字楽譜を作る。この方法で1万曲以上の曲を点訳し、演奏してきた。

よりよい音を追求するうちに、楽器の調整や部品の製作も専門の技術者に頼らず、自分で行うようになっていった。ボール盤や糸のこ、ドリルといった工具の扱いはお手の物で、ピアノの弦をたたくハンマーやチェンバロのジャックなど数ミ単位の細かい部品を作り、弦の張り直しもす

る。「好きだからやれる」とと笑いながら、「盲人でも大体のことはできると、理解が進んでほしい」と望む。

「障害者」という枠にはめられることを拒否して生きてきた。視覚障害者のためだけに思っただけの仕事もなかった。いい音、受賞はふさわしくない」と苦笑いする。それでも、多くの人にいい音を届けたいという意欲には偽りがなく、「夢は『もっとうまくやりたい』というだけ。楽器が本来持っていた音は何だったのか、探し続けたい」と力を込めた。

武久さんと、ピオラ・ダ・ガンバ奏者の市瀬礼子さんが共演するコンサートが12月7日午後7時から、渋谷区のコンサートホール「ムジカ・ザ・サト」で行われる。「チケットぴあ」で予約を受け付け中で、問い合わせはメール(concert.st@gmail.com)へ。